

# 研究主題：「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

令和3年度 都中理 学習指導・評価委員会

## 1 はじめに

令和3年度から実施された中学校学習指導要領においては、学習評価の充実について新たに項目が置かれた。具体的には、学習評価の目的等について示し、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することを示し、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示された。

本研究では、ここで求められている生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫を通して実現していこうと考え、研究主題を「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫とした。

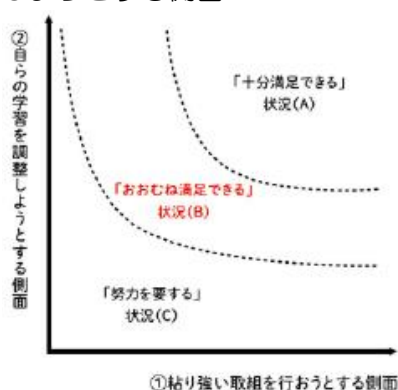
## 2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

従前の「関心・意欲・態度」から、「主体的に学習に取り組む態度」として改められた。これは、学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基いたものであり、この点を改めて強調するものである。と「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に書かれている。

また、本観点に基づく評価は、以下の2つの側面を評価することが重要であると述べられている。

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

【表1】



## 3 研究のねらい

先行研究にある(a)ルーブリック評価(b)一枚ポートフォリオを用いて、生徒が「主体的に学習に取り組む」場면을計画的に設定し、教師の指導改善・生徒の学習改善に繋げていくこととした。

- (a) ルーブリックを用いた評価の実践は、学習到達度を示す評価基準を観点と尺度からなる表として示したものである。ルーブリックを用いれば、客観的かつ信頼性の高い評価が可能となり、生徒の学習意欲を高め、深い学びにつながる事が報告されている。
- (b) 一枚ポートフォリオを用いた実践では学習過程を可視化することができ、自身の学習を振り返って、良い点や改善点を見つける力を育成することができ、PDCA サイクルを回すことができると報告されている。

本研究では、ルーブリックを活用することにより、学習評価の妥当性・信頼性を高めることを通して、「指導と評価の一体化」や「学びに向かう力の向上に向けた評価」をより強固に実施するよう取り組むこととした。また、評価材料として1枚ポートフォリオを使用し、生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成と、具体的な評価方法の実践に取り組んだ。

## 4 研究の方法と内容

### (1) 3×3のルーブリックを取り入れた評価

ルーブリック作成に当たり、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面と、②粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を一体的に見取る手立てとして3×3のルーブリックを作成した。

【表1】と対応するように①を横軸②を縦軸とし、2つの側面を2次元で捉え評価することができるように作成した。

【表2 3×3のループリックの例】別紙参照

ポートフォリオのループリック

② 自らの学習を調整しようとする側面

↑	授業の内容を踏まえて発展的な新たな疑問や課題を設定している。 自らの学習を振り返っていない	授業の内容を踏まえて発展的な新たな疑問や課題を設定している。 毎回の授業で、自らの学習を振り返っている。	授業の内容を踏まえて発展的な新たな疑問や課題を設定している。 毎回の授業で、自らの学習を振り返っていて、内容を具体的に示すことができる。
	授業の内容を踏まえて、新たな疑問や課題を設定している。 自らの学習を振り返っていない	授業の内容を踏まえて、新たな疑問や課題を設定している。 毎回の授業で、自らの学習を振り返っている。	授業の内容を踏まえて、新たな疑問や課題を設定している。 毎回の授業で、自らの学習を振り返っていて、内容を具体的に示すことができる。
	新たな疑問や課題を設定していない。 自らの学習を振り返っていない	新たな疑問や課題を設定していない。 毎回の授業で、自らの学習を振り返っている。	新たな疑問や課題を設定していない。 毎回の授業で、自らの学習を振り返っていて、内容を具体的に示すことができる。
	→		

① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面

(2) 1枚ポートフォリオを用いた授業

1枚ポートフォリオでは「単元を貫く問い」、「授業を通して、わかったこと・わからなかったこと」、「授業を通して、新しく出た疑問・もっと知りたいこと」の3つの欄を作成した。単元(章)の始めと終わりに「単元を貫く問い」を考えさせ、毎授業の終わりに「授業を通して、わかったこと・わからなかったこと」、「授業を通して、新しく出た疑問・もっと知りたいこと」の2項目について書く時間を設定した。

「授業を通して、わかったこと・わからなかったこと」の記述から、「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面」を見取ることとした。

また、「授業を通して、新しく出た疑問・もっと知りたいこと」の記述から、「②粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」を見取ることとした。

【表3 1枚ポートフォリオの例】別紙参照

1年 組 番 名 前	
単元2	身のまわりの物質
第3章	水溶液の性質
授業学習する前の考え	④ ビーカーの中のミョウバンが溶けずに大きくなったのはなぜだろうか。
自分の考え	
日付	1.授業を通して「わかったこと」「わからなかったこと」2.授業を通して「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」
授業学習した後の考え	④ ビーカーの中のミョウバンが溶けずに大きくなったのはなぜだろうか。
自分の考え	

これらを【表2 3×3のループリック】に当てはめ評価を行うこととした。

4 成果と課題

(1) 教師の指導改善

1枚ポートフォリオを活用することで生徒が授業を通してわかったことを自分の言葉で記入する機会を意図的に作り出すことができた。自らの考えを文章化し再形成させることで、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面を見取ることができた。また、「授業を通して、新しく出た疑問・もっと知りたいこと」を考え、記入させることを繰り返すことで、生徒が自らの学習を調整しようとする場面を計画的に作ることもできた。

また、3×3のループリックを活用することで、客観性のある評価を行うことができた。

(2) 生徒の学習改善

「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準について、粘り強い取組を行おうとする側面と自己の学習を調整しようとする側面を2次元で捉え、ループリックを作成し示すことで、生徒が自らの達成度を理解しながら学習に取り組むことができた。

(3) 今後の課題

本研究では3×3のループリックを作成し、1枚ポートフォリオを評価材料とし授業実践に取り組んだ。今後は各評価材料に対して活用できる3×3のループリックを作成していく。

「主体的に取り組む態度」を評価する場面や評価材料について今後も検討していく。また、生徒の「学びに向かう力」を育成していく方法についても研究していく。

(別紙)

## 3×3のループリックを取り入れた評価について

本研究では、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面と、② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を一体的に見取る手立てとして以下に示す3×3のループリックを作成した。

② 自らの学習を調整しようとする側面	A	授業の内容を踏まえて発展的な新たな疑問や課題を設定している。	授業の内容を踏まえて発展的な新たな疑問や課題を設定している。	授業の内容を踏まえて発展的な新たな疑問や課題を設定している。	A
	B	授業の内容を踏まえて新たな疑問や課題を設定している。	授業の内容を踏まえて新たな疑問や課題を設定している。	授業の内容を踏まえて新たな疑問や課題を設定している。	
	C	新たな疑問や課題を設定していない。	新たな疑問や課題を設定していない。	新たな疑問や課題を設定していない。	
		自らの学習を振り返っていない。	毎回の授業で自らの学習を振り返っている。	毎回の授業で自らの学習を振り返っていて、その内容を具体的に示すことができる。	
		自らの学習を振り返っていない。	毎回の授業で自らの学習を振り返っている。	毎回の授業で自らの学習を振り返っていて、その内容を具体的に示すことができる。	B
		自らの学習を振り返っていない。	毎回の授業で自らの学習を振り返っている。	毎回の授業で自らの学習を振り返っていて、その内容を具体的に示すことができる。	C
	C	自らの学習を振り返っていない。	毎回の授業で自らの学習を振り返っている。	毎回の授業で自らの学習を振り返っていて、その内容を具体的に示すことができる。	C
					A

① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面

横軸は「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面」を見取るため、授業の内容をどれくらい振り返っているかを評価基準とした。一枚ポートフォリオにある授業の振り返りを書く欄において、どれだけ学んだことを書こうとしているかを評価する。

縦軸は「② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」を見取るため、授業の内容を踏まえて次の学びにつながるような記述があるかどうかを評価基準とした。学んだことから新たな疑問や課題を見つけ、それがその後に学習する内容につながるような発展的なものであるかどうかを評価する。

この3×3のループリックでは、表に示した通りA～Cの3段階の評価を示してある。学習する内容等によってこの基準の線は評価者によって調整する必要がある。